

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200784		
法人名	社会福祉法人 常緑会		
事業所名	星空の都グループホームふるさと	ユニット名	西館
所在地	宮崎県都城市豊満町2642番地1		
自己評価作成日	平成28年7月20日	評価結果市町村受理日	平成28年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanitrue&livevoCd=4570200784-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

星空の都グループホーム東館は都城市の特別養護老人ホームの星空の都なごう内にあり、認知症デイサービス、グループホーム東館、西館と3棟並んで設立されている中で真ん中の建物である。ホールや居室からは南側に金御岳の山々からその山裾に広がる田園風景が望め、季節ごとに色彩が変わり、その様を入居者の皆さんは毎日眺めて季節を感じておられる。20代～60代の幅広い年齢層の8名のスタッフで9名の入居者のお世話をさせて頂いている。若いスタッフの元気さと行動力から、積極的に外出したり、新しい発想でのレクリエーション等で変化のある非日常を、年配のスタッフからは安らぎと落ち着きのある日常を提供することで、入居者の方はもちろん、スタッフも楽しく、笑い声や笑顔も多く、マンネリ化することなく適度に变化のある日常生活を送って頂けていると思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の自治会に加入している。また、文化祭に作品を出品して見学に行ったり、保育園児の来訪や中学生の職業体験・吹奏楽の演奏、看護専門学校の実習生の受け入れなど、交流が多くなされている。食事は、朝、昼、夕の3食を利用者と一緒に食べ、準備や片づけを手伝ってもらっている。廊下や居室の入口の壁には、行事に参加した時の写真があり、職員が言葉やイラスト、折り紙などを付け加えて飾っている。部屋に置いてあるポータブルトイレや吸引器には、職員手作りのカバーを掛けることで、居心地よく過ごせるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示して、毎朝のミーティングで唱和して共有、実践に繋げるようにしている。		「地域の催し物に参加して生活圏を広げ楽しみを持ってもらう」という理念に基づき、地域の文化祭に作品を出品し見学に行ったり、地域の行事に参加するなど、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館に加入しているため、ふるさと通信を年6回地域の回覧板に入れてもらっている。毎年納涼祭では、地域の方の催し等で交流が来ている。地域の文化祭でも、作品を出展して見学に出かけている。食材は地域の商店から取り寄せ配達等でつながりがある。		地域の自治会に加入して地域の行事に参加している。保育園児の来訪や中学生の職業体験、吹奏楽の演奏や看護専門学校の実習など、交流が多くなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回、発行している「ふるさと通信」にホームの活動内容を掲載し、認知症の理解も発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれのご家族の意見を聞けるように交代で出席してもらっている。家族の集いや敬老会等、全体の行事は平日に行われる事に対して、参加できない家族が多く、推進会議で土、日に出来ないかとの意見があり、今年度より土曜日に行くことになった。		熊本にボランティアに行った委員から、普通の非常食に加えてミキサー食の非常食も必要だとの意見が出され、検討し、ミキサー食の非常食も準備するなど、サービスの向上に生かしている。	会議の構成員に地域住民の代表者が少ない。自治会長や民生委員、高齢者クラブの代表者などに参加してもらうよう取り組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅部会や市主催の説明会に出席して取り組んでいる。		毎月2回、市の担当窓口を訪問しており、相談事項などに対応してもらえ関係作りがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。自由に過ごして頂いている。基本、勝手口はいつも開いている。玄関は時間を決めて開けている。ホールのサッシ戸は天気の良い日は網戸にしている。不穏状態で飛び出しがあるような状態の方がいる時は、一時施錠する時がある。		月1回のミーティングでは、施錠について話し合い、施錠時間を短くして対応している。また、母体法人の「身体拘束廃止と高齢者虐待防止法」の研修会に参加し、復命を行い、職員の共通認識を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し学び、虐待が無いように防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の方が成年後見人制度を利用されている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づきしっかりと説明して、改定等の時はその都度説明し、理解納得を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や面会時に要望や意見を伺っている。		家族に意見等を聞いている。意見や要望等が出ることは少ないが、出た意見は職員で検討し、運営に反映している。	行事の後などに、家族だけで話し合う場を設けるなど、意見や要望等を出しやすい環境作りに取り組むことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやサービス検討会での職員の意見を主任者会議で挙げている。年1回施設長との面接がある。		職員は、年1回、施設長と面談の機会があり、意見等を出す機会となっている。また、毎月1回のミーティング時に管理者は職員の意見を聞く機会を設け、その意見を施設長に伝え、意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や勤務状況など把握して、職員が充実して働けるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修に参加した職員は復命書を提出して職員研修で発表している。職員研修は月2回17時～17時30分に全職員が出れる体制で行っている。専門の講師の研修もある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南地区で年3回の研修があり参加できている。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で話しやすい雰囲気を作り、安心してもらえるよう努めて、情報や要望を得てサービスに導入している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、安心してもらえるようなケアを心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報や本人、家族との面接で、必要とされているであろう支援を見極める事が出来るよう努力している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持って対応し、色々な事を教えてもらえるような場面作りをしている。(洗濯物の干し方、たたみ方、掃除、ちり捨ては出来る方は手伝ってもらい、感謝の念を伝えている。)また、職員の話、家族構成を話したりして会話を楽しみ良い関係が築けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を伝え、遠方の方には、手紙、電話、メール、写真等で状態を知らせており、情報交換し共に支える関係が出来ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのような話題になった時は話を傾聴している。	地域で暮らすなじみの友人や隣のデイサービスを利用している知人が遊びに来るなど、継続的な交流ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の方以外は自由に座りたいところに座られて入居者同志コミュニケーションがとれている。その中でも相性がいい人は自室に迎えに行ったりされている。また、コップの片づけ等、代わりにされたりして支えあうような関係も出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体施設に移動になられた方の所には、時々面会に行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	回想法や方言で、本人の希望や意向の把握に努めている。		会話のできる利用者には、方言で意向の把握に努めている。言葉の出ない利用者については、日々の仕草や表情、家族からの情報で把握し、記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	資料を参考にして家族、本人の話をしっかり聞きプランを作成している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、顔色や表情の把握をして様子を見ながら、意思を尊重しその人のペースで過ごしてもらっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに見直ししているが、変化があれば1か月で見直し評価して作成している。その際、本人、家族、スタッフ、必要に応じて看護師の意見も聞き介護計画を作成している。		定期的見直しは3か月ごとに、また、モニタリングは毎月行っている。担当職員からの情報で計画書の原案を作成して、家族の意見や全職員の意見をカンファレンスで反映し、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出勤者で9名全員のケアの記録を毎日記入し、職員間で情報共有し実践やケアプランに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況の変化が発生した時点でカンファレンスを開催し、状況にあった変更を行い柔軟な支援の提供に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフの知人でハーモニカの演奏を披露しに来て下さり、懐かしく心地良い演奏に皆さんとても穏やかな表情で聞き入り、楽しんでおられた。又、地域の保育園児と一緒に園内の敷地内にある畑に芋の苗植えをし、収穫するのを楽しみにされている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望によるかかりつけの病院受診は、ご家族に協力を頂きながら継続して適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する主治医となっている。受診は、基本的に家族が付き添い、都合が悪い時は職員が支援している。薬の変更や受診の結果などは、ミーティングノートに記入して共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜勤明け(9時)日勤者(16時)に夜勤、日中の状態を報告し、異常があればその都度報告、相談し、適切な受診や看護を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師や家族・病院関係者と情報交換を行っている。また、入院時面会に行き、状況の把握をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に、十分な説明を行い大まかな方針を決めて頂き、重度化した場合や終末期などは、段階に応じて家族と充分話し合い、家族、医師、看護師、介護士で共有し取り組んでいる。	重度化に伴い、その都度家族に意思確認を行い、記録に残している。家族、職員、看護師、医師と話し合った内容は、申し送り時に記入し、共有している。研修会にも参加し、職員には復命を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設で毎年、スタッフ全員に向けAED・応急手当の研修があり参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設と合同で年2回夜間想定総合避難訓練を実施している。ホーム独自で年間計画を作成し、毎月10日に実施している。3日分の非常食を保管し、訓練の日はそれを食べてもらっている。	合同で総合防災訓練を年2回行い、消防署、消防団、消防設備会社も参加している。地域住民の参加はない。ホームでは、毎月10日に避難訓練を実施している。	災害時にいち早く駆けつけてくれる地域住民の参加がない。地域住民の協力体制を整えることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けや冗談を言ったり元気になるような声掛けを行っている。書類等はしっかり保管している。		利用者の義眼を食堂で洗っていたのを、利用者が見えないところで洗うようにするなど、プライバシーの確保に努めている。プライバシーの研修会にも参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目で意思表示されたりがあるので、常に表情や動作を観察して、自己決定の働きかけをしている。殆んどの方がご自分で衣類を選んで着ておられる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、1人ひとりのペースで自由に過ごされている。朝の体操時等で「今日は何をしたいか？」等聞いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどのの方がご自分で服を選んで着ておられる。髪型やコーディネートして着られたファッションをほめたりして気分良く男性の方は髭剃り機を準備して剃ってもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体施設の献立表はあるが、誕生会や七夕では食べたい物をお聞きし提供している。家族の集い、敬老会、納涼祭りではバイキング料理を提供し、焼きそば、お好み焼きは目の前で焼き、手伝ってもらう時もある。		庭で利用者と育てたナスやゴーヤなどの食材を使っている。朝、昼、夕の3食を職員も一緒に食べて、利用者に準備や片づけを手伝ってもらっている。春には、庭で桜の花を見ながらお弁当を食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴や現病歴によって、塩分や水分調整をしている。水分、食事摂取量、バイタル等、健康チェック表に記録して対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の往診があり、2名の方は自立で他の方は介助で毎食後口腔ケアして夜間は義歯消毒している。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後や排泄の間隔、仕草を見てトイレ誘導している。オムツをされている方も、日中はトイレでの排泄を心掛け介助している。自己導尿の方は気兼ねなく排泄できるよう配慮している。	利用者の尿量でオムツの種類を替えている。部屋で放尿する利用者があり、職員の提案で部屋に椅子やテーブルなどを置き、放尿できないスペースにし、トイレで排尿するようになった例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んで頂いたり、水分を多く摂ってもらい、排便チェック表を活用して状態によっては緩下剤でコントロールしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴漏れがないよう大まかな入浴チェック表を作成しているが、その日の体調や状態、希望、拒否等で柔軟に変更し、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。お湯は毎回入れ替えている。	冬場には、入浴剤を入れたり、ゆず湯を提供している。入浴を拒む利用者には、娘さんの名前を活用したり、入浴後にお菓子などを提供することで無理なく支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	両下肢の浮腫がある方が2名おられ、午後1時間程安静臥床で過ごせるようにしている。他の方は自由に昼寝されたりして過ごされている。居室にソファを置く事で休息されている方がいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は担当スタッフが責任を持って管理し、薬情書をファイルに綴り、スタッフ全員がいつでも確認できるようにしている。朝、昼が早出当番、夜が夜勤者が責任を持って与薬の確認をしている。与薬法も個々に合った方法で行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事(食事の片づけ、洗濯物干し、たたみ方、掃除、ちり捨て、漬物作り)等をしてもらっている。選択食の日をつくり、選んでもらい作った。ビールの好きな方にノンアルコールのビールを飲んで頂いた。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花見に出かけたり、外食に行ったりしている。墓参りにも家族の協力があり、出かけられている。	近所を散歩したり、ショッピングセンターやアジサイ公園、上米公園、つつじが丘などに家族の協力で一緒にドライブに出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診時の待ち時間にコンビニで好きな物を買えるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に自ら電話をかけたいと言われる方には使用して頂いている。年賀状は全員出して頂いて住所にのみ支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に観葉植物を配置したり、絵画、写真類を飾り楽しくゆったりとした空間を提供している。	廊下や居室入口の壁に行事の写真正があり、その周りに職員の言葉やイラスト、折り紙などで飾り付けをしている。ベランダがあり、春には、桜、梅の花を見ながらお弁当を食べることもある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広く食堂コーナー、ソファークーナーと分けているので、1人ひとり思い思いに過ごされたり、気の合った方同志で楽しく過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの設置等、観やすい所に置き、写真等も飾っている。ご本人が生活しやすいように、1部屋は畳をフローリングにリフォームした。	仏壇、ソファ、家族の写真やテレビなどを持ち込んでもらっている。ポータブルトイレや吸引器には、職員の手作りのカバーを掛けるなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の身体機能に合わせてベッド柵や補助バー、ポータブルトイレを設置している。又、時計と一日の流れを壁に貼っておくと、時間を見て一日を送られる方もおられる。			